



割り込みとプライバシー

- [割り込みとプライバシーについて \(1 ページ\)](#)
- [割り込みとプライバシーの構成 \(5 ページ\)](#)
- [割り込みとプライバシーの機能情報 \(16 ページ\)](#)

割り込みとプライバシーについて

割り込みと C 割り込み

[割り込み (Barge)] 機能を使用すると、ディレクトリ番号を共有している電話機ユーザーは、ソフトキーを押して共有回線の進行中の通話に参加することができます。発信者がコールに割り込むと、割り込み発信側、着信側およびそのコールで接続されているその他の通話者間で会議が作成されます。通話者の電話機にはコール情報が表示されます。また、会議参加トーンが設定されている場合は、そのトーンが聞こえます。

共有回線を使用している 1 台の電話機でプライバシーが有効になっている場合、回線を共有している他の電話機にはコール情報は表示されず、コールに割り込むことができません。接続されている通話者には、会議が設定されると割り込みトーン (1 回のビープ音) が聞こえます。通話者が会議を退出すると、残りの通話者に対して割り込みの退出音が再生されます。

Cisco Unified Cisco Mobility Express リリース 11.7 以降、[cBarge] 機能は Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータでサポートされています。

Cisco Unified Cisco Mobility Express リリース 12.0 以降、[cBarge] 機能は混合共有回線でサポートされます。



- (注)
- Cisco Unified IP Phone 69xx series は、Cisco Unified Cisco Mobility Express で [cBarge] 機能をサポートしません。
 - SIP 電話機の Barge および Cbarge ソフトキーは、共有回線でのみサポートされます。
-

割り込み (SIP)

割り込みは、着信側の電話機（割り込まれる電話機）上の組み込み会議ブリッジを使用します。これは、割り込みできるユーザの数を制限するものです。割り込み会議は、最大3人の参加者をサポートします。3人を超えるユーザが SIP 共有回線する場合は、C 割り込みを使用する必要があります。SIP 電話機では、割り込みを使用するには組み込み会議ブリッジが必要です。割り込みは、SIP 共有回線のディレクトリ番号に対してのみサポートされます。



(注) 電話機ユーザが割り込み会議に割り込むと、会議は C 割り込み会議へ変換されます。

cBarge (SCCP および SIP)

[cBarge] 機能は、1人以上の通話への介入を許可する共通会議リソースを使用します。C 割り込み会議は、一元化された会議リソース上でプロビジョニングされる最大数の参加者をサポートします。cBarge を使用するように一元化された会議リソースをプロビジョニングする必要があります。cBarge は、SCCP 共有 octo-line ディレクトリ番号と SIP 共通回線ディレクトリ番号でサポートされています。

いずれかの参加者がコールを退出しても、回線上に3人以上の参加者が残っている場合、コールは会議コールのままになります。会議に2人の参加者のみが残っている場合は、それらの参加者はポイントツーポイント コールとして再接続され、会議ブリッジリソースが解放されます。着信側の参加者がコールをパークするか、そのコールを他のコールに参加させても、割り込み側および他の参加者は接続されたままになります。

表 1: 組み込みブリッジおよび共通会議ブリッジでの Barge 通話と cBarge 通話の違い (2 ページ) は、組み込み会議ブリッジを使用した割り込みと、共有会議ブリッジを使用した C 割り込みの違いを示しています。

表 1: 組み込みブリッジおよび共通会議ブリッジでの Barge 通話と cBarge 通話の違い

アクション	割り込み：着信側デバイスでの組み込み会議ブリッジ	C 割り込み：共有会議ブリッジ
割り込みのセットアップ中にメディアの切断が発生	いいえ	はい
ユーザに割り込みトーンが聞こえる（設定されている場合）	はい	はい
割り込み発信側の電話機に名前を表示	割り込み側へ	割り込み側へ
着信側の電話機に名前を表示	他の参加者へ/他の参加者から	割り込み側へ

アクション	割り込み：着信側デバイスでの組み込み会議ブリッジ	C 割り込み：共有会議ブリッジ
他の電話機に名前を表示	着信側へ/着信側から	割り込み側へ
すでに割り込まれた通話への2回目の割り込みを許可します	はい	はい
最大参加者数	3	共有会議リソースで許可される最大数。
発信側がコールを解放	元の2人の参加者で、メディアの中断は発生しません。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。
着信側がコールを解放	発信側を他の参加者とポイントツーポイントコールとして接続するために、メディアの中断が発生します。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。
他の参加者がコールを解放	3人の参加者すべてが解放されます。	2人の参加者のみが残っており、残りの参加者をポイントツーポイントのコールとして再接続するときに、共有会議ブリッジ解放のためメディアの中断が発生します。
着信側はコールを保留にして、転送、会議、または通話パークを実行します。	発信側が解放されます。	発信側および他の参加者は接続されたままになります。

使用できる会議ブリッジ（割り込み用の着信側デバイスでの組み込み、またはC割り込み用の共有のいずれか）がない場合、または参加者の最大数に達した場合、Cisco Unified CMEは割り込み要求を拒否して、発信側の電話機にエラーメッセージが表示されます。

リモートで使用中の進行中の通話に対して、電話機ユーザーが共通回線ボタンを押すと、BargeとcBargeソフトキーは、デフォルトで表示されます。ユーザーは、BargeまたはcBargeのいずれかを選択して、共有回線通話に参加します。共有回線上に複数のアクティブコールがある場合、割り込み発信側はコールを強調表示して、参加させるコールを選択することができます。

ソフトキーテンプレートを使用して、ソフトキーの表示をカスタマイズできます。構成の詳細については、「[SCCP 電話機での cBarge ソフトキーの構成 \(5 ページ\)](#)」または「[SIP 電話機での Barge および cBarge ソフトキーの有効化 \(7 ページ\)](#)」を参照してください。



制約事項 既存のアドホックまたは Meet-Me 会議での cBarge 操作はサポートされていません。

プライバシーとプライバシー保留

プライバシー機能を使用すると、電話機ユーザーは、通話情報を確認したり、通話を再開したり、通話に割り込んだりしないようにディレクトリ番号を共有している別のユーザーをブロックできます。電話機が共有回線で着信コールを受信すると、ユーザは[プライバシー (Privacy)] 機能ボタンを押してそのコールをプライベートに設定することができます。このボタンでは、オン/オフを切り替え、電話機のプライバシー設定を変えることができます。プライバシー状態は、電話機のユーザが所有する新しいすべてのコールと現在のコールに適用されます。

プライバシーは、SCCP octo-line ディレクトリ番号および SIP 共有回線ディレクトリ番号でサポートされます。

プライバシーは、システム内のすべての電話機に対してデフォルトで有効になっています。プライバシーを全体的に無効にし、個別の電話機テンプレートか電話機テンプレートを使用して、特定の電話機だけで有効にすることができます。また、特定の電話機でプライバシーボタンを有効にすることもできます。[プライバシー (Privacy)] ボタンが有効になっている電話機が Cisco Unified Cisco Mobility Express に登録されると、電話機の [回線 (Line)] 機能ボタンに [プライバシー (Privacy)] というラベルが付けられ、状態アイコンが表示されます。ボタンにモニタランプがある場合は、プライバシーがアクティブなときに点灯します。エクステンション モビリティ電話機の場合、ユーザープロファイルとログアウト プロファイルで [プライバシー (Privacy)] ボタンを有効にできます。

[プライバシー保留 (Privacy on Hold)] 機能を使用すると、他の電話機ユーザーが通話情報を参照したり、共通ディレクトリ番号を共有している他の電話機が保留状態の通話を取得することができなくなります。プライバシー保留は、システム内のすべての電話機に対してデフォルトで無効になっています。[プライバシー保留 (Privacy on Hold)] 機能は、すべての電話機で全体的に有効にできます。個々の電話機で [プライバシー保留 (Privacy on Hold)] を無効にするには、各の電話機でプライバシーを無効にする必要があります。

プライバシー機能は、電話機のすべての共有回線に適用されます。ある電話機が複数の共有回線を所有しており、プライバシーが有効になっている場合、他の電話機は、共有回線上のどのコールに対しても参照したり、割り込みできなくなります。

SCCP 構成情報の詳細については、「[SCCP 電話機でのプライバシーと保留中のプライバシーの有効化 \(9 ページ\)](#)」を参照してください。

SIP 構成情報の詳細については、「[SIP 電話機でのプライバシーと保留中のプライバシーの有効化 \(13 ページ\)](#)」を参照してください。

割り込みとプライバシーの構成

SCCP 電話機での cBarge ソフトキーの構成

電話機ユーザが[C割込 (cBarge)]ソフトキーを押して、オクトラインディレクトリ番号上のコールに参加できるようにするには、次の手順を実行します。[C割込 (cBarge)]ソフトキーはデフォルトで有効になっています。このタスクは、リモートで使用中のコール状態におけるソフトキーの表示順序を変更する場合のみ必要です。



制約事項

- オクトラインディレクトリ番号でのみサポートされます。
- ミートミー会議ではサポートされません。
- 電話機ユーザが、オクトライン上の同じアドホック会議にすでに接続されている場合はサポートされません。

始める前に

- Cisco Unified CME 7.0 以降のバージョン。
- オクトラインディレクトリ番号が設定されていること。「[SCCP 電話機の電話番号の作成](#)」を参照してください。
- 電話機でプライバシーが無効になっていること。「[プライバシーとプライバシー保留 \(4 ページ\)](#)」を参照してください。
- アドホックハードウェア会議リソースが設定され、使用できる状態にあること。「[ハードウェア会議の構成](#)」を参照してください。
- ハードウェア会議の参加トーンと終了トーンは、割り込みの開始および終了のトーンとして設定できます。「[参加トーンと退出トーンの構成](#)」を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template** *template-tag*
4. **softkeys remote-in-use** { [CBarge] [Newcall] }
5. **exit**
6. **ephone** *phone-tag*
7. **ephone-template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# ephone-template 5	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを開始して、ephone テンプレートを作成します。 • <i>template-tag</i> — 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲：1 ～ 20。
ステップ 4	softkeys remote-in-use { [CBarge] [Newcall] } 例： Router(config-ephone-template)# softkeys remote-in-use CBarge Newcall	リモートで使用し中電話状態で、IP Phone に表示されるソフトキーの順序とタイプを変更します。
ステップ 5	exit 例： Router(config-ephone-template)# exit	ephone テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	ephone <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# ephone 12	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。
ステップ 7	ephone-template <i>template-tag</i> 例： Router(config-ephone)# ephone-template 5	ephone テンプレートを電話機に適用します。 • <i>template-tag</i> — 手順 3 で作成した ephone テンプレートの固有識別子。
ステップ 8	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例は、ephone テンプレート 5 が、リモート使用中の通話状態に表示されるソフトキーを変更し、ephone 12 に適用されることを示しています。

```
ephone-template 5
  softkeys remote-in-use CBarge Newcall
  softkeys hold Resume Newcall Join
  softkeys connected TrnsfVM Park Acct ConfList Confrn Endcall Transfer Hold
  max-calls-per-button 3
  busy-trigger-per-button 2
!
!
ephone 12
  no phone-ui speeddial-fastdial
  ephone-template 5
  mac-address 000F.9054.31BD
  type 7960
  button 1:10 2:7
```

SIP 電話機での Barge および cBarge ソフトキーの有効化

電話機ユーザは、[割り込み (Barge)] または [C 割込 (cBarge)] ソフトキーを押して共有回線上のコールに参加することができます。サポートされている SIP 電話機では、割り込みおよび cBarge ソフトキーがデフォルトで有効になっています。リモートで使用中のコール状態におけるソフトキーの表示順序と外観を変更する場合のみ、次の手順を実行します。



制約事項 • 共有回線でのみサポートされます。

Cisco IP Phone 7800 Series の [割り込み (Barge)] 機能をサポートする Unified Cisco Mobility Express の場合、**telephony-service** 構成モードで CLI コマンド **service phone LineKeyBarge 2** を構成する必要があります。

```
telephony-service
  service phone LineKeyBarge 2
```

CLI コマンド **service phone LineKeyBarge 2** は、Cisco IP Phone 7800 Series の回線キーをアクティブにして、「リモート使用中」状態のソフトキーが正しく表示されるようにします。コマンドが構成されていない場合、電話機にリモート使用状態のソフトキーは表示されません。

LineKeyBarge オプションを使用して電話機の構成を更新するには、**voice register global** 構成モードで CLI コマンド **create profile** を実行する必要があります。



(注) リモート使用状態のソフトキー設定に割り込みと cBarge の両方が構成されている場合、cBarge が優先機能と見なされます。電話機は割り込み構成を無視します。

始める前に

- Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョン。
- 共有ディレクトリ番号が設定されていること。「[SIP 電話機にディレクトリ番号を作成する](#)」を参照してください。

- アドホックハードウェア会議リソースが設定され、使用できる状態にあること。「[ハードウェア会議の構成](#)」を参照してください。
- ハードウェア会議の参加トーンと終了トーンは、割り込みの開始および終了のトーンとして設定できます。『Cisco Unified Cisco Mobility Express システム アドミニストレーションガイド』の「[参加トーンと退出トーンの構成](#)」を参照してください。
- 割り込みと cBarge を機能させるには、**no privacy** コマンドを使用して音声登録グローバルで、プライバシーを無効にします。プライバシーの構成については、「[SIP 電話機でのプライバシーと保留中のプライバシーの有効化 \(13 ページ\)](#)」を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register template** *template-tag*
4. **softkeys remote-in-use** { [**Barge**] [**Newcall**] [**cBarge**] }
5. **exit**
6. **voice register pool** *phone-tag*
7. **template** *template-tag*
8. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register template <i>template-tag</i> 例： Router(config)# voice register template 5	音声登録テンプレート構成モードを開始し、音声登録テンプレートを作成します。 • <i>template-tag</i> — 作成した音声登録テンプレートの固有識別子。範囲は 1 ~ 10 です。
ステップ 4	softkeys remote-in-use { [Barge] [Newcall] [cBarge] } 例： Router(config-register-temp)# softkeys remote-in-use cBarge Newcall	リモートで使用中の通話状態で、SIP Phone に表示されるソフトキーの順序とタイプを変更します。
ステップ 5	exit 例：	音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーションモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-register-temp)# exit	
ステップ 6	voice register pool <i>phone-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 12	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> — 構成タスク中にこの音声登録プールを識別する一意の番号。
ステップ 7	template <i>template-tag</i> 例： Router(config-register-pool)# template 5	音声登録テンプレートを電話機に適用します。 • <i>template-tag</i> — 手順 3 で作成したテンプレートの固有識別子。
ステップ 8	end 例： Router(config-register-pool)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例は、音声登録テンプレート 5 がリモート使用中通話状態で表示されるソフトキーを変更し、電話機 120 にそれが適用されていることを示しています。

```
voice register template 5
softkeys hold Resume Newcall
softkeys connected Trnsfer Park Hold
softkeys remote-in-use cBarge Barge
!
voice register pool 120
id mac 0030.94C2.A22A
type 7962
number 1 dn 20
template 5
```

SCCP 電話機でのプライバシーと保留中のプライバシーの有効化

SCCP 電話機でプライバシーおよびプライバシー保留を有効化にするには、次の手順を実行します。

- すべての電話機で、プライバシーへのアクセスが必要な場合、システムレベルの **privacy** (テレフォニーサービス) コマンドを有効 (デフォルト値) に設定し、電話機レベルの **privacy** (Ephone) コマンドをデフォルト値 (システム値を使用) に設定する必要があります。
- 特定の電話機のみでプライバシーを有効化する場合、テレフォニーサービス構成モードで、**no privacy** コマンドを使用して、システムレベルでプライバシーを無効にし、Ephone または ephone-template テンプレートモードで **privacy on** コマンドを使用して、電話機レベルでプライバシーを有効にします。

- システムレベルでプライバシー保留を有効にします。個々の電話機で [プライバシー保留 (Privacy on Hold)] を無効にするには、各の電話機でプライバシーを無効にする必要があります。



制約事項

- プライバシーおよびプライバシー保留は、共有オクトラインディレクトリ番号上のコールに対してのみサポートされます。
- Cisco Unified IP Phone 7935、7936、7937、または 7985、Nokia E61、Cisco VG224 または Cisco ATA に接続されているアナログ電話機、またはディスプレイが装備されていない電話機では、プライバシーおよびプライバシー保留はサポートされていません。

始める前に

- Cisco Unified CME 7.0 以降のバージョン。

手順の概要

- enable
- configure terminal
- telephony-service
- privacy
- privacy-on-hold
- exit
- ephone *phone-tag*
- privacy [off | on]
- privacy-button
- end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Router# enable	特権 EXEC モードを有効にします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	telephony-service 例：	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config)# telephony-service	
ステップ 4	privacy 例： Router(config-telephony)# privacy	(任意) すべての電話機に対してシステムレベルでプライバシーを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> このコマンドは、デフォルトで有効になっています。 個々の電話機に対してのみプライバシーを有効化するには、no privacy コマンドを使用してシステムレベルでプライバシーを無効化し、手順 8 の説明通り個々の電話機でプライバシーを有効化します。
ステップ 5	privacy-on-hold 例： Router(config-telephony)# privacy-on-hold	(任意) すべての電話機に対してシステムレベルでプライバシー保留を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> 共有回線上の電話機ユーザが、コール情報を表示したり、保留中のコールを取得できないようにします。デフォルトは無効です。
ステップ 6	exit 例： Router(config-telephony)# exit	telephony-service コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 7	ephone phone-tag 例： Router(config)# ephone 10	ephone コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> phone-tag—構成タスク中にこの ephone を識別する一意の番号。
ステップ 8	privacy [off on] 例： Router(config-ephone)# privacy on	(任意) 特定の電話機のプライバシー サポートを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> off—電話機のプライバシーを無効にします。 on—電話機のプライバシーを有効にします。 デフォルトでは、システムレベルのプライバシー設定になっています。特定の電話機に対して手順 4 のシステムレベル設定を変更するには、このコマンドを使用します。 このコマンドの no フォームを使用すると、システムレベルの値をリセットできます。 このコマンドは、ephone テンプレート構成モードで構成して、1 台以上の電話機に適用するこ

	コマンドまたはアクション	目的
		ともできます。ephone コンフィギュレーションは、ephone テンプレート コンフィギュレーションよりも優先されます。
ステップ 9	privacy-button 例： Router(config-ephone)# privacy-button	IP Phone のプライバシー機能ボタンを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> このコマンドは、オクトライン ディレクトリ番号を共有する電話機に対してのみ有効にします。 このコマンドは、ephone テンプレート 構成モードで構成して、1 台以上の電話機に適用することもできます。ephone コンフィギュレーションは、ephone テンプレート コンフィギュレーションよりも優先されます。
ステップ 10	end 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

例

次の例では、システムレベルでプライバシーを無効にしてから、個々の電話機で有効にしています。また、システムレベルでプライバシー保留を有効にしています。

```
telephony-service
no privacy
privacy-on-hold
max-ephones 100
max-dn 240
timeouts transfer-recall 60
voicemail 8900
max-conferences 8 gain -6
transfer-system full-consult
fac standard
!
!
ephone 10
privacy on
privacy-button
max-calls-per-button 3
busy-trigger-per-button 2
mac-address 00E1.CB13.0395
type 7960
button 1:7 2:10
```

SIP 電話機でのプライバシーと保留中のプライバシーの有効化

SIP 電話機でプライバシーおよびプライバシー保留を有効にするには、次の手順を実行します。

- すべての電話機で[プライバシー (Privacy)] を有効にするには、システムレベルの **privacy** (音声登録グローバル) コマンドを有効化 (デフォルト値) に設定し、電話機レベルの **privacy** (音声登録プール) コマンドを、デフォルト値 (システム値を使用) に設定します。
- 特定の電話機のみで[プライバシー (Privacy)] を有効化するには、音声登録グローバル構成モードで、**no privacy** コマンドを使用してシステムレベルでプライバシーを無効にし、音声登録プールまたは音声登録テンプレート構成モードで **privacy on** コマンドを使用して電話機レベルでプライバシーを有効にします。
- すべての電話機で、[保留中のプライバシー (Privacy on Hold)] を有効にするには、**privacy-on-hold** コマンドを使用してシステムレベルで有効にします。特定の電話機で [保留中のプライバシー (Privacy on Hold)] を無効にするには、音声登録プールまたは音声登録テンプレート構成モードで、**privacy off** コマンドを使用して、該当する電話機の [プライバシー (Privacy)] を無効にします。プライバシー保留をサポートするには、プライバシーを有効にしておく必要があります。



制約事項

- プライバシーおよびプライバシー保留は、共有回線ディレクトリ番号上のコールに対してのみサポートされます。
- Cisco Unified IP Phone 7935、7936、7937、または 7985、Nokia E6、Cisco VG224 または Cisco ATA に接続されているアナログ電話機、またはディスプレイが装備されていない電話機では、プライバシーおよびプライバシー保留はサポートされていません。

始める前に

- Cisco Unified CME 7.1 以降のバージョン。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register global**
4. **privacy**
5. **privacy-on-hold**
6. **exit**
7. **voice register pool phone-tag**
8. **privacy { off | on }**
9. **privacy-button**
10. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： <pre>Router# enable</pre>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： <pre>Router# configure terminal</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	voice register global 例： <pre>Router(config)# voice register global</pre>	telephony-service コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	privacy 例： <pre>Router(config-register-global)# privacy</pre>	(任意) すべての電話機に対してシステムレベルでプライバシーを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • このコマンドは、デフォルトで有効になっています。 • 個々の電話機に対してのみプライバシーを有効化するには、no privacy コマンドを使用してシステムレベルでプライバシーを無効化し、手順 8 の説明通り個々の電話機でプライバシーを有効化します。
ステップ 5	privacy-on-hold 例： <pre>Router(config-register-global)# privacy-on-hold</pre>	(任意) すべての電話機に対してシステムレベルでプライバシー保留を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • 共有回線上の電話機ユーザが、コール情報を表示したり、保留中のコールを取得できないようにします。デフォルトは無効です。
ステップ 6	exit 例： <pre>Router(config-register-global)# exit</pre>	音声登録グローバル構成モードを終了します。
ステップ 7	voice register pool phone-tag 例： <pre>Router(config)# voice register pool 10</pre>	音声レジスタ プール コンフィギュレーションモードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>phone-tag</i>— 構成タスク中にこの電話機を識別する一意の番号。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<p>privacy {off on}</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-pool)# privacy on</pre>	<p>(任意) この電話機で電話機レベルのプライバシー設定を変更します。デフォルト値はシステム設定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • off 電話機でプライバシー状態をオフに設定します。 • on— 電話機でプライバシー状態をオンに設定します。 • 特定の電話機に対して 手順 4 のシステムレベル設定を変更するには、このコマンドを使用します。 • このコマンドの no フォームを使用すると、システムレベルの値をリセットできます。 • このコマンドは、音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーションモードに設定して、1 つ以上の電話機に適用することもできます。電話機の設定は、電話機テンプレートの設定よりも優先されます。
ステップ 9	<p>privacy-button</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-pool)# privacy-button</pre>	<p>IP Phone のプライバシー機能ボタンを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • このコマンドは、共有回線ディレクトリ番号を使用する電話機でのみ有効にします。 • このコマンドは、音声レジスタ テンプレート コンフィギュレーションモードに設定して、1 つ以上の電話機に適用することもできます。電話機の設定は、電話機テンプレートの設定よりも優先されます。
ステップ 10	<p>end</p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-register-pool)# end</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

例

次の例では、システムレベルでプライバシーを無効にしてから、個々の電話機で有効にしています。また、システムレベルでプライバシー保留を有効にしています。

```
voice register global
mode cme
```



```

privacy-on-hold
no privacy
max-dn 300
max-pool 150
voicemail 8900
!
!
voice register pool 130
id mac 001A.A11B.500E
type 7941
number 1 dn 30
privacy ON
privacy-button

```

割り込みとプライバシーの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りが無い限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 2: 割り込みとプライバシーの機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	変更内容
割り込み	12.0	混合共有回線の cBarge サポートが追加されました。
	11.7	Unified Cisco Mobility Express の Cisco 4000 シリーズ サービス統合型ルータでの cBarge のサポートが追加されました。
	7.1	SIP 共有回線ディレクトリ番号に対する、割り込みおよび C 割り込みのサポートが追加されました。
	7.0/4.3	SCCP 共有 octo-line ディレクトリ番号の cBarge サポートが追加されました。

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express のバージョン	変更内容
プライバシー	7.1	SIP 共有回線ディレクトリ番号でのプライバシーのサポートが追加されました。
	7.0/4.3	SCCP 共有オクトラインディレクトリ番号でのプライバシーのサポートが追加されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。